

会 議 録

第 1 回定例会

開会 令和 3 年 4 月 9 日

教育委員会会議録

1 開 会 令和3年4月9日 午前10時00分

2 閉 会 令和3年4月9日 午前10時30分

3 教育委員会出席者

教育長	榎 浩一
委 員	小林 信行
委 員	河口 雅子
委 員	菊池 健次
委 員	島 隆寛
委 員	三木 千佳子

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	臼杵 一浩
教 育 次 長	藤本 和史
教 育 次 長	藤田 完
教 育 創 生 課 長	重田 英紀
教 職 員 課 長	今田 潤
教 育 政 策 課 長	高崎 美穂
教 育 政 策 課 副 課 長	高木 和久

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

《協議事項 1 令和 4 年度育児休業及び配偶者同行休業の代替に係る任期付教員採用候補者選考審査要綱について》

教育長 説明を求める。

教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

小林委員：男性教員の中で育児休業を取得している例は徳島県にあるのか。

教職員課長：全体で 180 名ほど育児休業を取得している。その中には、男性教員が取得している例もある。

小林委員：配偶者同行休業を取得している人は、どれくらいか。

教職員課長：1 名である。

小林委員：それは、配偶者が海外出張等の理由で取得しているのか。

教職員課長：そうである。

教育長 協議事項 1 を議案第 1 号として付議してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第 1 号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第 1 号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項 1 第 2 回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」の概要に

ついて》

教育長 報告を求める。
教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：ミッション、ポリシーに共感しても距離があって通えず、オンライン入学が認められるのかということも考えられる。高校生の25%が県外に就職して、そのうち3年以内に辞める方が約38%いる。世間一般とあまり変わらないが、高校生と企業側とのマッチングは非常に大事ではないか。就職担当以外の先生はあまり知らず、高校生も先生から言われて行くと受入れ側の企業もほとんど拒否権がない。受け入れないと次の年には紹介してもらえないという状況もある。高校生側と受入れ側でミスマッチが生じているので、マッチングに力を入れると県外流出が減り、地元に着定するようになるのではないかと。企業側のみならず普通科といえども高校側も考えていく必要がある。

河口委員：資料中に、スクール・ミッション案があるが、これはあくまで案なのか。

教育創生課長：そうである。

河口委員：専門高校であれば書きやすいが、普通科で特色を出すためには独自のものを書かないと特色が出ないのではないかと。こういうものができると中学生の進路選択に有効だと感じた。

小林委員：同じような文言がずらっと並んでいる。各学校の校長等の熱い思いが伝わってこない。普通科では「普通科教育の特長を生かし」や「幅広い進路実現」といった表現が多く見られる。これでは各高校の魅力は伝わってこない。ミッションというからには、教育委員会側が作るのもいいが、学校の熱い思いが伝わるミッションであってほしい。

河口委員：普通科であろうともその学校の独自性がおそらくあると思う。概略的なものでなく、具体的な記述がいいのではないかと。

教育長：スクールミッション案の前段は、これまでやってきた取組を記載し、後段ではその取組を生かし、今後どのような学校にするのかということに記載している。委員からのご指摘のように保護者や子どもたちにとって分かりやすく、魅力を感じてもらえるようなものに仕上げるのが大切である。普通科については魅力を出しにくいところもあるが、知恵を絞って各校の特色も把握して作成していきたい。4月末の第2回定例教育委員会で最終的に策定することとしたい。

小林委員：スクール・ミッションは、教育委員会が作るものなのか。

教育創生課長：そうである。スクール・ポリシーは学校側が特色ある取組や志願してほしい生徒像などを盛り込んで作ることになる。資料4に広報のイメージがあるが、その中にミッションを端的に表すキーワードを盛り込み特色を打ち出すことになる。

小林委員：スクール・ミッションは建学の精神のようなものかと思っていたが、そうではなく、この学校はこうあってほしいというのがスクール・ミッションということか。

教育創生課長：そうである。

教育長：資料3の富岡東であれば、中高一貫教育と商業科による多様性があり、その強みを生かした上で、県内外で活躍するリーダーとして育ててほしいというようなミッション案である。それを受けて、学校がポリシーを作る流れになっている。

三木委員：今回のミッションにおいて、今までと大きく変わる学校はあるのか。

教育長：今までやってきた取組をミッションに盛り込んでいるので、急に変わったことを記載することはない。

三木委員：自分の住んでいる地域の学校を拝見すると、今まで思っていたとおりだという印象を持った。

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前10時30分